（作左の会歴史勉強会資料）

２０２１．２、２７（土）
午前10時～11時45分
土井町公民館・現地

本多氏と土井城

本多豊後守家

本多氏は「寛政重修諸家譜」によれば、太政大臣藤原兼道の子、左大臣顕光11代後胤、右馬允助秀（うまのすけすけひで）が豊後国本多郷に住んだのを始まりとします。助秀の子助定は足利尊氏に仕え、建武３年（１３３６）志村某等の凶徒を鎮定すべき命を受け、その功により尾張国横根（よこね）・粟飯原（あいはら）郷をあてがわれました。

その一族は１５世紀に三河を所領しており、所在は不明ですが地頭的領主であったと思われます。一族には４系列５家があります。（※系図参照）

助定の子定正から発する系統があり、定正の孫秀清は松平長親に仕えて、明応６年（１４９７）に土井村を恩給され、清重・信重・広孝と土井を本拠として代を重ねます。この系統が土井の本多豊後守家です。

初代　本多秀清　豊後守
　松平長親に仕えます。
　明応６年（１４９７）土井郷を賜り、番城・丸山に居住します。
　明応７年（１４９８）７月死去　法名心賢　現在の墓所でなく、番城・丸山周辺にあった浄土真宗円行寺（えんぎょうじ）に葬られます。

２代　本多清重　修理大夫
　松平長親・信忠に仕えます。
　永正１３年（１５１６）死去　　法名浄蓮　土井円行寺に葬る（後、坂崎円行寺に）。

３代　本多信重　豊後守
　松平信忠・清康に仕える。**土井城を築城（城屋敷）**します。
　享禄２年（１５２９）　三河下地の合戦の時、御油の縄手にて討死します。
　　法名道哲　土井円行寺に葬られます。（後、坂崎円行寺に）

４代　本多広孝　豊後守　越前守
　松平広忠・徳川家康に仕えます。
　大永７年（１５２７）　土井に生まれます。
　享禄２年（１５２９）　信重討死の後、父を継いで土井に住み、松平広忠に使えます。広忠より御諱字（いみじ）を賜り広孝と称します。
　永禄４年（１５６１）　吉良東条を攻め、藤浪畷（なわて）にて、吉良義昭の家臣富永伴五郎を討ちます。義昭は和を乞い城から退きます。
　永禄６年（１５６３）　三河一向一揆の時、広孝は家康に従い、土井城は一揆に味

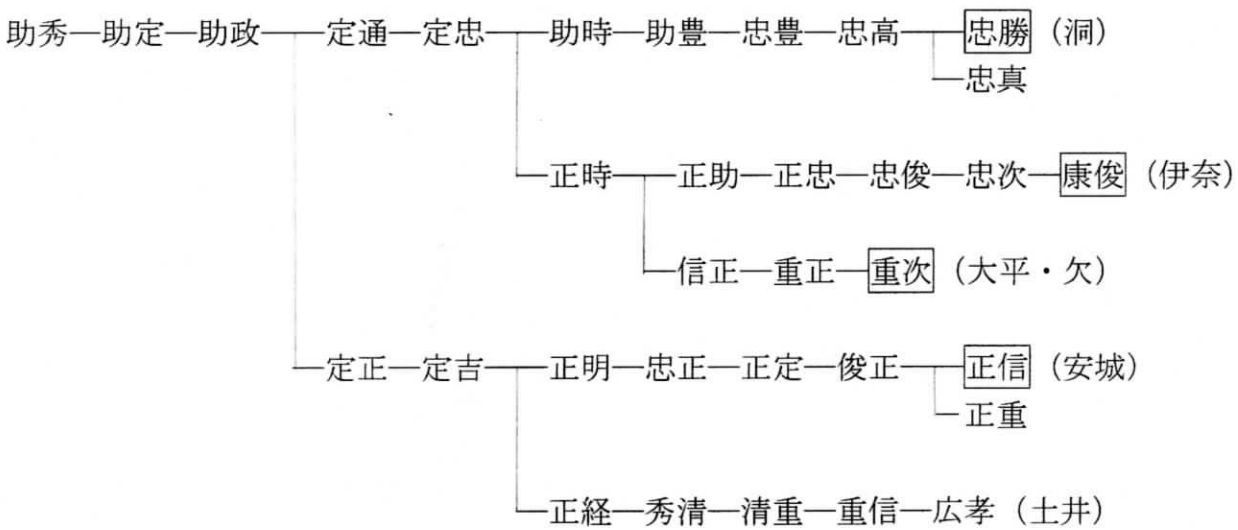
方する諸村に挟まり朝夕一揆側と戦います。
この時人質として嫡子康重を岡崎城に差し出します。
また、土井にあった浄土真宗円行寺（先祖３代は真宗門徒）を破却し、僧を追放します。

永禄７年（１５６４）　三河田原城を攻め落す。広孝６月より田原城に移ります。
広孝は土井の地を去るにあたり、家臣で家老の太田平八郎本久を土井に残し、屋敷、屋形を被下されます。

天正１８年（１５９０）家康関東移封にともない上野国白井に移ります。

慶長元年（１５９６）　病死　７０歳　葬地は白井源空寺です。

※本多氏の系図（４系列５家）



※ 作左の会の本多作左衛門重次は本多氏５家の１つです。
※ 土井の本多氏も本多５家の１つで、ルーツは同じです。

参考資料
本多氏と宮地犬頭神社
（１）宮地犬頭神社の鳥居は、慶長 14 年（１６０９）に、狛犬は慶長 15 年（１６１０）に初代岡崎城主本多康重が寄進したものです。
（２）寛政５年（１７９３）信濃国飯山城主本多助受（すけよし）は、犬頭神社拝殿を再建しています。

土井城

本多豊後守家の城跡、土井城は現在市街化の影響でほとんど見る影もなくわずかな遺構が残るほどです。本多秀清から四代本多広孝が田原へ移るまでの６７年の間の本拠地でありました。ただし、本多氏が城屋敷の土井城に居住したのは、３代信重以降となります。

城郭は土井町字城屋敷にあり、高さ１m、東西５０m、南北８０mの矩形型（くけい）の高まりがそれと推定されます。城屋敷、蔵屋敷、東・西番城、池田、間ノ堀（あいのほり堀跡、現在字名はない）、駒の舞など城郭関連の地名が残されています（城郭跡は下土井全域）。

太田家資料には土井城の城跡の古図（※図参照）が残されています。その形態は、本多家の城を中心に堀が取りまき、その外周りを本多家家臣の屋敷が記されています。

土井城は、永禄七年（１５６４）本多広孝が土井から田原に移りますが、その時家臣の太田家が「屋鋪及び屋形等を賜う」とあり、敷地と建物を預りました。

その後、天正１８年（１５９０）豊臣秀吉が天下を統一し、岡崎城に田中吉政が入封すると、「一国一城の制度」のもと「土井のお城も引崩し、惣堀も埋立て田になり申し候」となり廃城となりました。

※参考

（１）慶長６年（１６０１）本多康重　初代岡崎城主（前本多）２代本多康紀、３代本多忠利
正保２年（１６４５）４代本多利長　横須賀に移封（本多豊後家岡崎在封４４年間）
その後、本多氏は出羽国村山、越後国糸魚川、信濃国飯山藩主となり、明治維新となります。

（２）古図上に土井（早乙女）大炊頭古城（北側）・三浦五左衛門古城（南側）の記載あり、二家が本多豊後家と同時期に活躍しておらず、広孝が田原へ移った後に土井へ入ったと推測できます。
早乙女家も三浦家も、本多の家臣（大身・家老クラス）の屋敷跡に入り、土井に残された太田家と嫁や養子として親戚となっています。

（３）土井城古図は享保３年（１７１８）頃、本多家（飯山藩主）の依頼により僧・善閭が土井の地を訪ね作成したものです。

※土井に残された資料には、僧善閭が本多氏の依頼により江戸から出向いて、本多家の調査をし、古城図を作成したとしか記載がありませんが、その後の長野飯山忠恩寺（本多氏菩提寺）との交流の中で、新たな資料が分かりました。

僧善閭は、江戸麻布にある本多氏が檀家の「教善寺」の僧で、享保３年より少し前に、赤渋「松林寺」の第９世住職として派遣され、本多家の家臣「春日井茂左衛門」赤渋を訪ね善閭に依頼して作成されたものです。古城図には、初代秀清の墓が記載されていますが、春日井が訪ねた時はまだ「旧円行寺跡地」にあったものを、本多家の依頼で早急に現地（蔵屋敷）へ移されたようです。

（４）昭和 30 年（１９５５）当時の土地改良により、池や沼田であった堀の埋め立て、道路が新設され、土井城趾やその周辺が大きく変わりました。

土井町歴史年年表（抜粋）

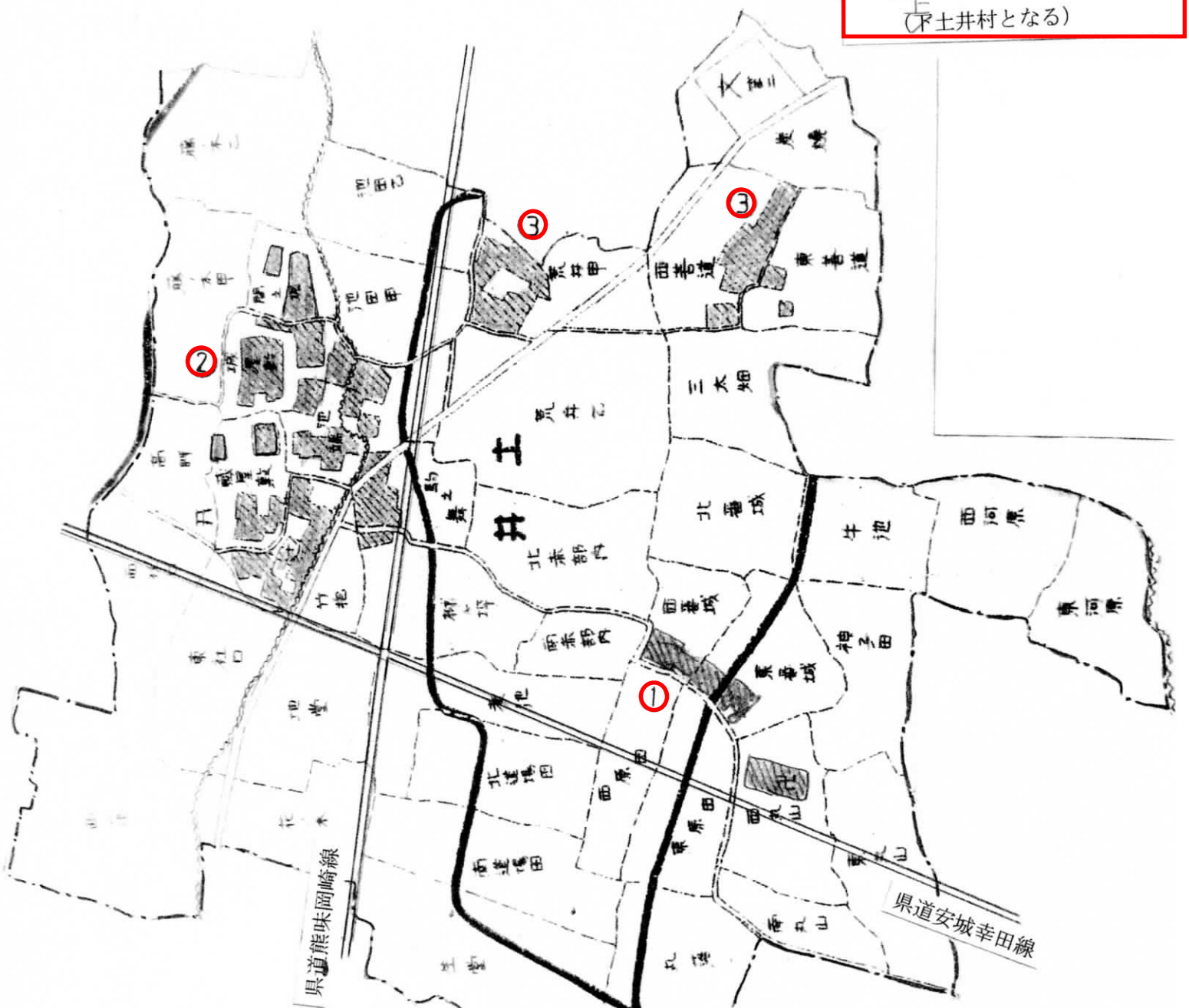
（西暦）	（年　号）	（土井町関連事項）
１４６９	文明元	太田三郎五郎光政　佐々木より土井に移る
１４９７	明応６	本多秀清　松平長親に仕え土井を恩給される
１４９８	明応７	本多秀清（初代）死去　（土井円行寺に葬る）
		太田藤九郎光房　佐々木より土井に移る
		二代修理大夫清重公妹妻
１５１６	永正１３	本多清重（２代）死去　（土井円行寺に葬る）
１５２７	大永７	本多広孝（４代）　土井城に生まれる
１５２９	享禄２	本多信重（３代）吉田にて討死（土井円行寺に葬る）
１５５４	天文２３	本多康重（初代岡崎藩主）　土井城で生まれる
１５６１	永禄４	本多広孝　東条城の吉良義明を攻め大功あり
		太田平次郎本次　東条合戦で富永伴五郎を討つ
		広孝公の家老に、頭に「本」の字相続く
１５６３	永禄６	本多広孝　一向一揆の際、康重を人質として送り忠誠を尽くす
		土井にあった円行寺を破却し、僧を追放し家康に忠誠を尽くす
		先祖３代の墓は土井円行寺に残す（番城・丸山周辺）
１５６４	永禄７	本多広孝　田原へ移る（６月）
		太田平八郎本久　広孝公田原へ御処替の時、土井屋敷に平八郎を残し置く（土井の家臣屋敷は空き家となる）
１５７３	天正元	土井利勝　遠江国浜松に生まれる
１５７６	天正４	土井利勝　早乙女小左衛門利昌の養子となる（土井に住む、７年か？）
１５７９	天正７	土井利勝　徳川秀忠の守役となる（土井を去る）
１５９０	天正１８	本多広孝　上野国白井２万石に転封
		田中吉政　岡崎入部　土井城廃城、堀は埋め田に
１５９６	慶長元	本多広孝　病死（上野国白井　源空寺）
１５９８	慶長３	早乙女小左衛門利昌　死去（中之郷大聖寺）
１６０１	慶長６	本多康重　岡崎５万石を拝領する（前本多・初代）
１６０６	慶長１１	土井利勝　母死去（玉等院・中之郷浄妙寺）
１６２２	元和８	本多康紀　幸田坂崎に円行寺を創設、２代清重、３代信重の墓を移す。初代秀清は松の根に阻まれ土井（丸山）に残る
１６３０	寛永７	土井利勝　両親の墓を下総国佐倉・松林寺に改葬
１６４５	正保２	水野忠善岡崎入部　本多利長横須賀藩に転封、菩提寺を能見源空寺より遠江国横須賀撰要寺に移す
１７１８	享保３	土井城古地図作成（本多氏の依頼で僧善閭）
		＊僧善閭は赤渋松林寺の第９世住職

（資料・岡崎市史、後久録、寛政重修諸家譜、太田学・一夫家資料など）

土井の小字名と集落の移り変わり

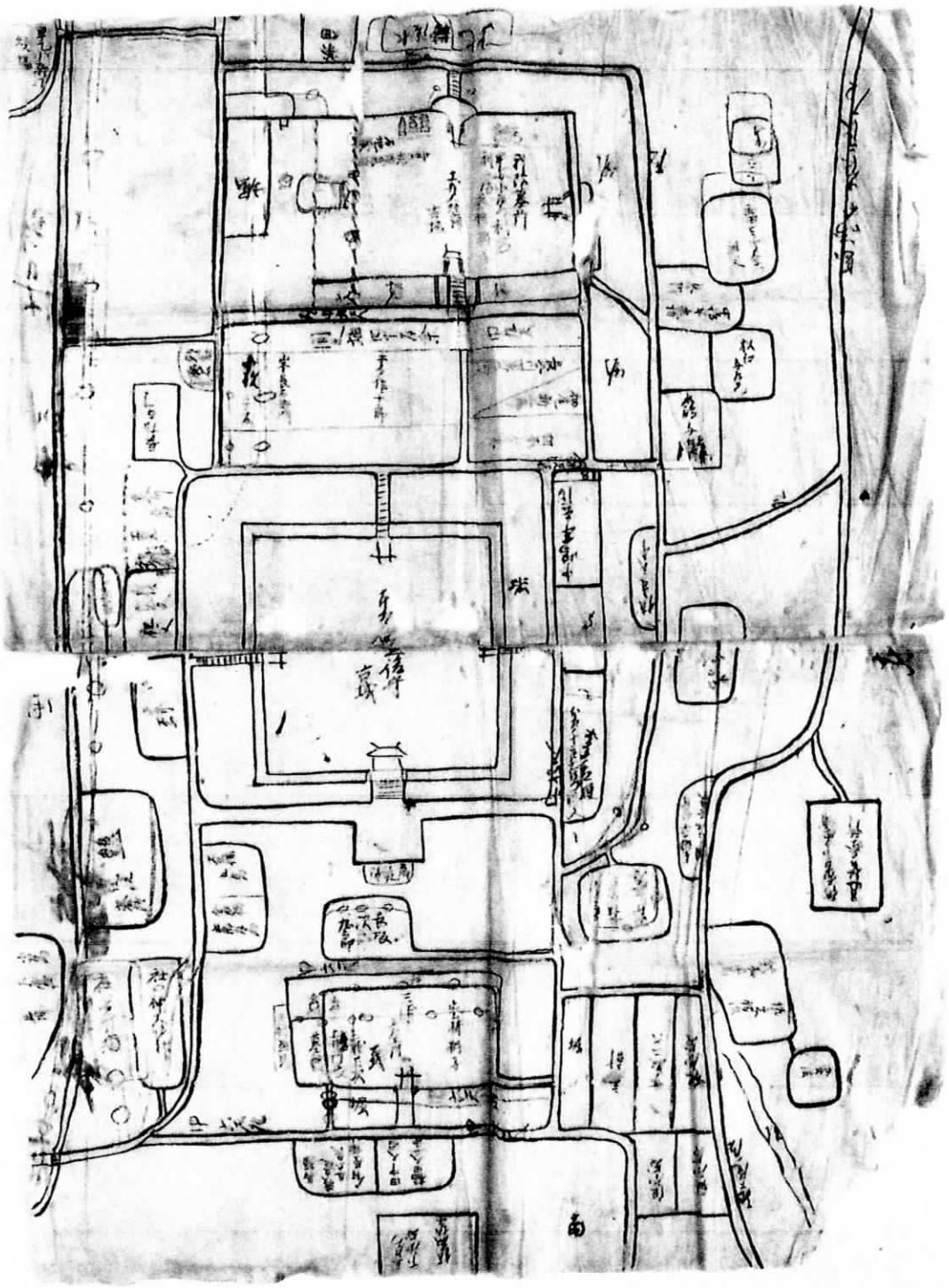
区域は昭和１３年（１９３８）当時

③ 岡崎城主本多家の終盤から
水野家の頃、善道に伊豫田家
荒井に太田家が住む
（下土井村となる）

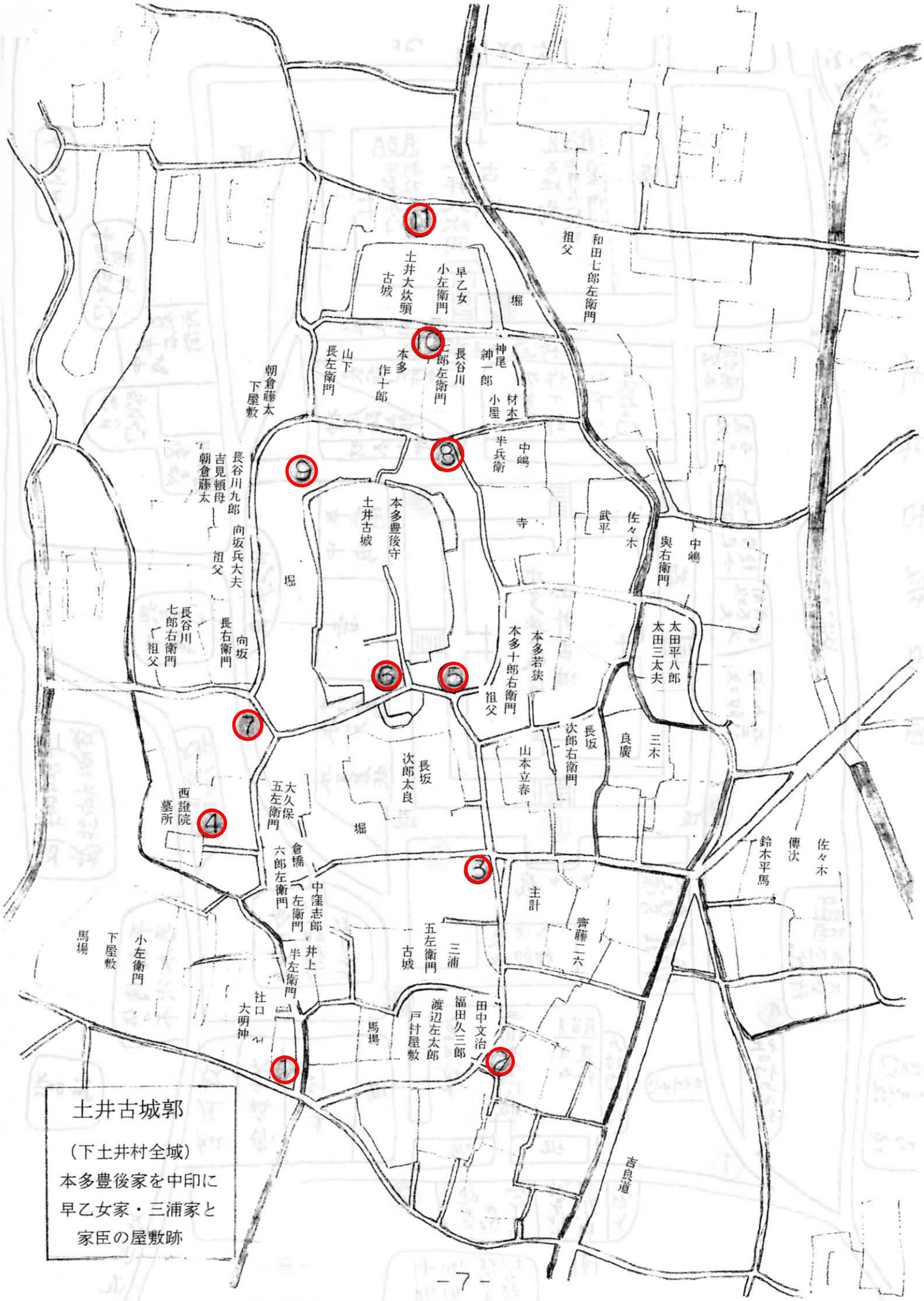


② 本多家三代目信重の時、土井城築造
土塁を盛り城郭作り家臣も周囲に住む
土塁から土井の地名が始めて起きる
（下土井村の全て区域）

① 土井に太田家が住み始めた頃
その後、本多秀清が土井を賜う
まだ土井の地名はない（下和田の端）



土井城古図（原図・太田一夫家資料）


和田七郎左衛門
祖父
堀
早乙女
小左衛門
土井大炊頭
古城
長谷川
紳一郎
神尾
小屋
材木
山下
長左衛門
本多
作十郎
朝倉藤太
下屋敷
中嶋
半兵衛
寺
長谷川九郎
吉見頼母
朝倉藤太
向坂兵大夫
祖父
本多豊後守
土井古城
堀
佐々木
武平
中嶋
與右衛門
長谷川
七郎右衛門
祖父
向坂
長右衛門
本多若狭
本多十郎右衛門
祖父
太田平八郎
太田三太夫
長坂
次郎右衛門
三木
良廣
長坂
次郎太良
山本立春
堀
大久保
五左衛門
西證院
墓所
倉橋
六郎左衛門
中窪志郎
左衛門
井上
半左衛門
主計
齊藤二六
三浦
五左衛門
古城
佐々木
傳次
鈴木平馬
小左衛門
下屋敷
馬場
社口
大明神
馬場
田中文治
福田久三郎
渡辺左太郎
戸村屋敷
吉良道
土井古城郭
（下土井村全域）
本多豊後家を中印に
早乙女家・三浦家と
家臣の屋敷跡

土井大炊頭
古城
水多豊後守
土井古城
藏
長次郎
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10